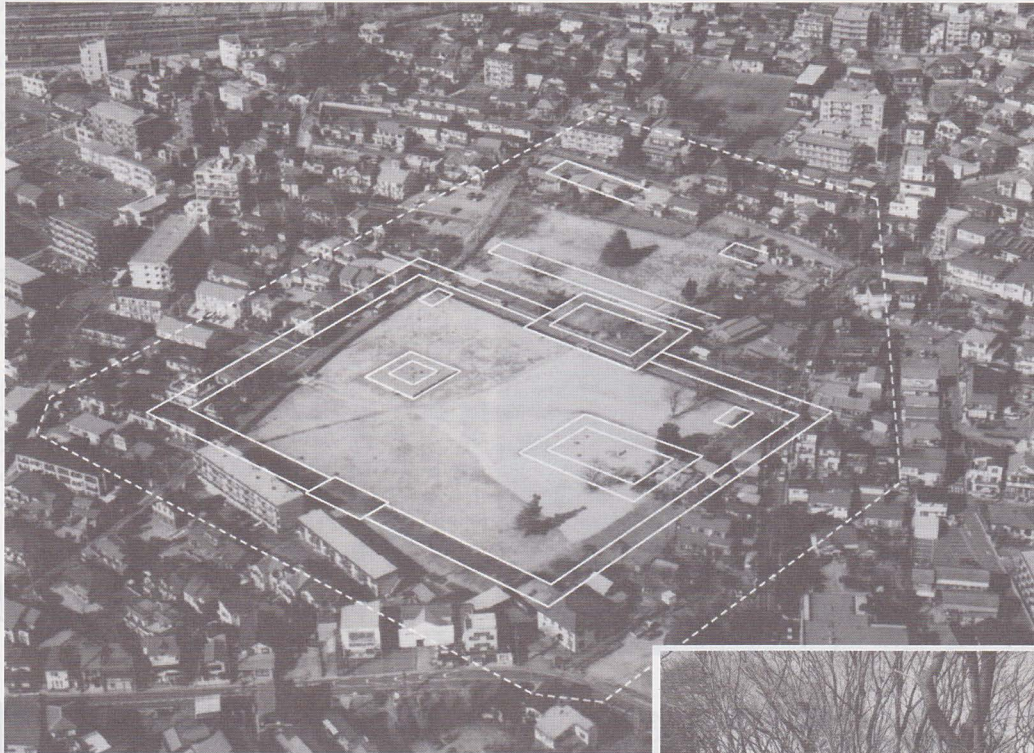


公民館かながわ



目次

館長・公民館運営審議会委員等 研修会報告2
『公民館の未来へ思いを寄せて』 神崎節生3
第五十一回神奈川県公民館 大会報告4
事例報告 「逗子市手づくり絵本コンクール」 講演「それぞれの魔法 それぞれの旅立ち」6
わが館の自慢事業 「パソコンと友だちになろう！」 （小田原市生涯学習センター 「けやき」）7
サークル紹介 「混声合唱団『混声ポピン』」 （大井町立中央公民館） 「丹沢パソコンクラブ」 （秦野市立北公民館）8
職員からの一言 平塚市立大神公民館 佐藤克美8
編集後記8

平成二十一年度館長・公民館 運営審議会委員等研修会報告

十一月二十日(金) 藤沢市立

明治公民館に於いて、館長・公民館運営審議会委員等研修会が開催されました。一三一名の参加者は熱心に耳を傾け、充実した研修であったという声が多く聞かれました。

◇ ◇ ◇

①人権講話

「人権感覚・人権意識を高めよう」

県教育局高相津久井教育事務所
指導課 社会教育主事兼指導主事

高橋 久美子 氏

はじめに、トリックアートやパズルを使い、人は思いこみや固定観念にとらわれやすく、多面的な見方が人権意識を高めるために大切であることが説明されました。

次に、子どもの人権に関し、虐待といじめを取り上げ、小学生の詩や「子どもの権利条約」にある意見表明権に触れながら、大人が子どもの声を聴くこと、子どもを認めることの大切さを話されました。女性の人権については、配偶者からの暴力相談件数が増加して

いること、世界と比較して日本女性の社会的立場が低いことから、男女の人権が等しく尊重され、利益も責任も分かち合える男女共同参画社会の実現が望まれると述べられました。障害者の人権については、障害者の実雇用率の低さや、障害者に関わるマークやコミュニケーション支援ボードについて話され、障害者の社会参加を進めることを説かれました。高齢者の人権については、高齢単身世帯の割合が高く、「孤独」が問題化していることを指摘され、高齢者が人と触れ合い、元氣が出る場が公民館であると話されました。

終わりに、人権意識を育むキーワードは「自尊感情を持つ」「コミュニケーション能力を磨く(聞くから聴くへ)」「非攻撃的的自己主張」の三点であるとまとめられました。

◇ ◇ ◇

②事例発表「市民館(公民館)における協働事業のあり方」

川崎市高津市民館運営審議会

副会長 小倉 敬子 氏

最初に、協働型事業推進のきつ



かけについて、①以前からあったパートナリング事業の未成熟、

②市民活動の盛り上がりとの協働についてのルール作りの必要性、③自治基本条例の協働の概念の文書化の三点をあげられました。協働の六つのルールは、①目的の共有、②対等の関係、③相互理解、④役割分担と責任範囲の確認、⑤公開性・透明性、⑥成果の振り返り、で四つまでできれば協働、残りの二つもできれば協働型事業と考えると概念を説明されました。

また、市民活動団体に協働型事業と認識されていない実情もあるが、市民自主企画・市民自主学級講座が台頭し、準備から運営、受講まで市民が自主的に関わり、活動の自立に有効な手段となっていくことが述べられました。

今後の課題については、市民が

協働を身につけるための市民館側のアピールと指導、既存の市民活動団体への支援と協働による新たな事業の展開、事業の公益性の向上、集客のための広報の工夫等があると発表をまとめられました。

◇ ◇ ◇

③講演「公民館のこれまでとこれから」神奈川県公民館連絡協議会会長としての二十年の歩みから」

全国公民館連合会副会長
神奈川県公民館連絡協議会

顧問 神崎 節生 氏

長きに亘る公民館活動のトップリーダーとしての経験から、自身のぎつしり詰まった、貴重なお話を伺うことができました。

社会教育法の経緯と県の公民館の変遷を検証しながら、ご自身の歩みを重ねながらのお話と、詳細なデータや自作の貴重な資料を基に、この六十年間の社会教育法と公民館の歩み、そして今後の方向、期待が熱く語られました。(内容は特集をご覧ください。)

講演後、「課題やこれからの方向が見えた」「神崎先生の公民館に対する愛情を感じた」等、講演内容についての高い評価と共にこれまでのご功労に対する感謝とねぎらいの声が多く聞かれました。

公民館の未来へ思いを寄せて

神奈川県公民館連絡協議会総顧問 神崎節生 氏

この道一筋に

私が社会教育という分野の現場「公民館」で生活の糧を得られたことは、この上ない恵まれた人生であった。と感じている。しかも最初の出会いで素晴らしい上司に恵まれ、社会教育の基本理論・方法などを指導されたことが、その後の仕事上の大きな力になったことである。

しかも現役で県域の会長職を受け二十年、名実ともに公民館人生であった。「この道一筋」この道より生きる道なし、この道に生きる」。

公民館を取り巻く環境

今の公民館を取り巻く環境は、私の現役時代に比べると厳しさを増している。勿論、当時も施設・設備も不十分で、職員も少なく厳しい環境にあったが、公民館の使命である学習活動に力を注いでいた。運営審議会も活発で、大いに勉強させられた。館長にとつて、ある意味うるさい存在であったのかもしれないが、職員にとつては大いに勉強になったものである。そこで社会教育法が制定六十周



年を迎えたことを機に少し述べてみたい。こだわりの条文は第二、三条、二十、二十三、二十七、二十九条の各条文である。現実の公民館運営でどう生かされてきたであろうか。吟味してほしい。

一方、地域ではNPO、市民活動支援センターの支援を受けた自主活動などみられる。これらの活動に関心を向けながら、必要に応じて、地域住民のためにも、連携協力から共同事業の実施も視野に入れていく必要がある。

他方、公民館の首長部局への所

管替え、公民館の一部廃止（南足柄市）、指定管理者制度の導入など無関心ではいられない状況が出て来ている。

しかも公民館自身が弱体化していき、職員の減少、経験の蓄積、力量などの問題を生み出している。

存在意義のアピール

存在意義をどうアピールしていくのか。この六十年余、「公民の館」として憲法や教育基本法、社会教育法に沿った「学び」の保障にあった、区域内住民の生活に関する課題解決の学習、さらには広域社会へと連結していく学習の広まりの期待でもあった。そのことが生活課題、地域課題あるいは現代の課題へのチャレンジであった。これまで公民館で積み上げてきたノウハウ「課題の把握、プログラムの企画・立案・学習方法・評価（今日ではPDCA）」という一連の学習過程の有様をきちんとアピールしていくことにある。

そのために、館長・職員・審議会委員という運営、事業実施の仕組が構築されていたのではなかったのか。今一度基本に立ち返って取り組みを進めていく必要があるのではないか。

公民館事業の構造化

職員は地域住民の学習に関する

良き相談相手でなければならぬし、学習意欲を引き出し、やる気にさせていくカウンセラーでもなければならぬだろう。「話し上手は聞き上手」ということである。

職員自身がその機会の中で課題に「気づく」という作用を受けることになる。課題把握の調査活動にもなる。構造化の段階は①つどい②学び③結び④知る⑤参加する、にあり、④の構造化の参加が学習成果の実践である。（社会還元）。

公民館に人を得ること

「公民のための館」をアピールするのも「人」職員にある。減員されていく中で職員補佐ができる、かつての社会教育指導員のよくな人材の発掘・養成である。

職員の養成・研修・自主学習と館長のリーダーシップの発揮であり、審議会委員との三者協働による運営こそ、初心に帰ってのありべき姿ではないだろうか。

あらたに一歩を

この厳しい状況を切り開くヒントは、館長、公運審委員、職員による五十年間の公民館経営計画の策定にある。①新たな目標の設定、②地域の状況調査、③各年代層に応じた事業の指標づくり、④職員養成（研修）計画、⑤強化基準の作成等で乗り越えて欲しい。

公民館の連携がつくる

あらたな地域社会

第五十一回

神奈川県公民館大会

逗子市立文化プラザホール



第五十一回神奈川県公民館大会が平成二十一年一月二十八日に、県内各市町公民館職員、教育委員会関係職員、運営審議会委員など三六八名が参加し、逗子市立文化プラザホールで開催されました。

今大会は、世界的な経済不況による経済危機や地球環境への不安から、国内的にもその影響のため、経済・産業等回復の途上で開催されます。

地域に困難な状況が広がる今日こそ、真に地域からの暮らしに根ざした学びが求められています。

◇式典は、逗子市混声合唱団の歌声にはじまり、本会栗利幸会長、逗子市村上裕教育長の主催者あいさつ、各種表彰。平尾竜一逗子市長、県教育委員会中島栄一副教育局長から御祝辞をいただきました。

事例発表

逗子市手づくり

絵本コンクール

発表 逗子市市民協働部市民協働課 菅原江美さん、逗子手作り絵本コンクール市民選考委員長 山田久美雄さん、手づくり絵本サークル「ずっしー」代表 星みゆきさん○作品朗読牧三千子さん

市制五十周年を契機に、自然豊かな逗子市を全国に広め、心豊かな地域文化を醸成することを目的に、平成十六年からはじめました。

「逗子市手づくり絵本コンクール」は、毎年三百冊近い作品が全国から集まる大きなコンクールです。

このコンクールの特徴は、その審査員に本大会で記念講演をお願いした角野栄子さんをはじめ、近在の著名人をお願いしているほか、公民館での「手づくり絵本講座」や、その参加者で結成されたサークル活動などを中心にして、コンクールを中心にした、継続的な地域活動を根付かせている点です。そこには、コンクールの選考を、市の美術協会会員や学童保育スタッフといった市民選考員、市民投票という市民協働の手法がとられ、表彰式当日には、市文化協会が主幹する「朗読会」で、受賞作品がプロの手により朗読されています。幾重にも地域に根と枝を伸ばす文化活動として広がっていることを知ることができました。

講演

「それぞれの魔法

それぞれの旅立ち」

童話作家 角野栄子 氏

角野栄子さんは、出版社に勤め、結婚後二年間ブラジルに滞在され、帰国後「ルイジーンニヨ少年、ブラジルをたずねて」で絵本、童話作

家としてデビュー。八十五年に発表した「魔女の宅急便」が宮崎駿氏によりアニメ映画化されたことでも知られますが、野間児童文学賞、路傍の石文学賞など、多くの賞を受賞されています。

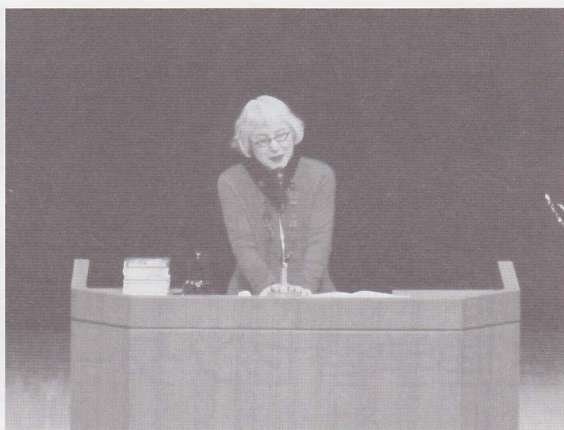
鎌倉在住で、逗子市の手づくり絵本コンクールの選考委員として、第一回から係わられています。

◇魔女の宅急便

私は今年「魔女の宅急便」という作品の第六巻、完結編を出版しました。完結編を書くまでに二十四年かかりました。このお話は私にとってはとても思い出深いし、また楽しく書いた作品だったんです。

中学生のとき娘が書いた魔女の絵をみて、十二歳ぐらいの女の子の魔女の話を書いてみよう、飛べるんだからおもしろそうだ、物を運ぶ人にしたらいいかななんて、そう思ったんです。そして書き始めたら、どこかの町に行って暮らすことに話が進みました。というの、物語を書くときは、人物をまず思い浮かべるわけです。この子はキキという名前にしようと思って、キキという名前にしたら、その人は私のわきに立つんです。自分の願いをその人に吹き込んでいくわけです。

「魔法は飛ぶことだけにしよう」と漠然と思っただけに、それが書いていくうちに、そのことが大切になってくるんです。魔法を一つにすれば、困ったときは工夫が生まれる、嫌になったときの落ち込みもひどい。落ち込んでからリカバーする。十二歳の女の子がたった一つの魔法を持って大きくなっていくという話になっていったわけです。



◇ものを書き始めたわけ

私はいろいろなものになりたいとは思ったことはあるんですが、でも中途半端で、ある程度まではやるんだけど、でもつまらなくなってきたりして、やめてしまおうん

です。

私は、仕事についていたんですが、すぐ結婚して、すぐブラジルに行き、帰ってきたら子供が生まれてということ、何かやりたいなと思いつつも、ぐずぐずと過ごしていったんです。そのときに大学のときの先生が、ブラジルに行ってきたんだから、ブラジルの子供の本を書いてみたらどうかとおっしゃったんです。そして、ブラジルの思い出は私にとつてとても大事だったものだから、一生懸命書いたわけです。

でも、今までみたいに飽きないんです。私にとつては、きつと魔法だったんだと思うんです。魔法にかかったとしか思えないほど、書くことが好きになった。これを見つけてよかったですと思いました。

◇魔法はひとつ

人は好きなものをみつけられたら、それはその人の魔法になるでしょう。好きだから続けられる、挫折しても、がんばろうというきもちになれる。それが魔法だと私は思っています。それには小さい時の経験が大きな力になるし、その意味で幼年童話を体制津に考えたいと思います。自分で読むことで培われる想像力は、その人の魔法につながっていくでしょう。

「魔法の宅急便」のキキの物語は終わるわけなんです、読んでくださった方が、そこからまたいろいろなことを想像する。その中に魔法が隠れているかもしれないと思っているんです。今後もし愛して読んでくだされば幸いです。

平成二十一年度個人表彰

○職員等功績表彰

神崎節生（神奈川県公民館連絡協議会前会長・現顧問）

森川哲郎（相模原市立沢井公民館館長）

○永年勤続表彰

名古屋 彰（藤沢市立村岡公民館技能労務職員）

小倉義男（相模原市立橋本公民館館長代理）

谷古宇和也（相模原市教育委員会藤野教育課主査兼社会教育主事）

山口博一（大和市生涯学習センター主査兼社会教育主事）

佐藤克美（平塚市教育委員会社会教育課主幹兼社会教育主事）

伊藤仁志（秦野市立渋沢公民館館長）

史跡 秋葉山古墳群・相模国分寺跡・相模国分尼寺

海老名市内には国指定史跡が三ヶ所もあり、古代相模の中核地域であったといわれています。秋葉山古墳群は、弥生時代終末（三世紀後半）から古墳時代初頭（四世紀）にかけて築造された古墳群で、この地域を治めた歴代の首長墓と考えられています。古墳の形状や祭祀形態の変遷がわかる重要な遺跡として平成十七年七月十四日付で国指定史跡となりました。

相模国分寺跡・国分尼寺跡は、聖武天皇の勅願により建立された寺院遺跡です。

金堂跡をはじめとする主要な建物の礎石が残るなど保存状態が良く、奈良・法隆寺と同じ建物配置を採用した類例の少ない国分寺であることから大正十年三月三日付で国指定史跡となりました。

国分尼寺は、全国的に見ても確認されている例が少なく、相模国分尼寺跡では金堂跡に礎石が残るなど保存状態が良好であることなどから平成九年四月三日付で国指定史跡となっています。

国分寺跡は、整備がほぼ終わり、塔基壇などを復原していますので是非ご見学ください。

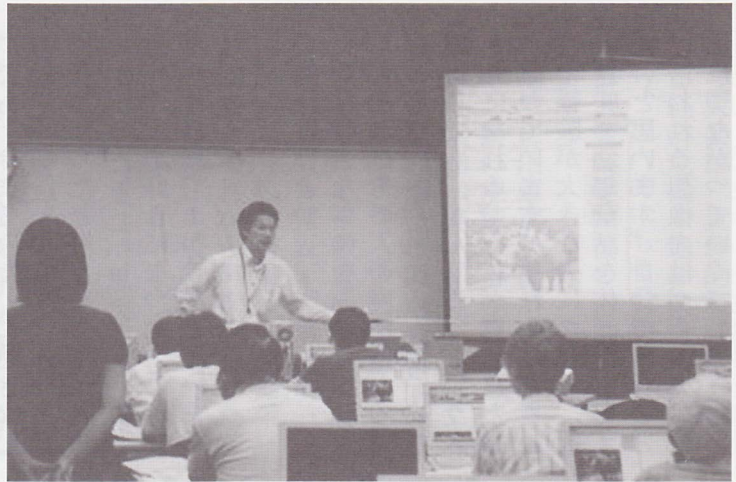
わが館の自慢事業

「“パソコン”と友達になろう!!」

小田原市生涯学習センター「けやき」

小田原市は、県西部に位置する人口およそ二十万人の都市です。古くから、文化・芸術活動をはじめとした生涯学習活動が盛んに行われており、活動しているサークル・団体の歴史も半世紀を越えているところも見受けられます。

さて、小田原市生涯学習センター「けやき」では、「おだわらシルバード大学」、「生涯学習きらめき☆おだわら塾」、「生涯学習センター講座」などといった様々な講座を開設していますが、「生涯学習セ



ンター講座」の中から「パソコン講座」「パソコン」と友達になろう!!」をご紹介します。

「生涯学習センター講座」は、市民ボランティア団体である「小田原市生涯学習推進員の会」と生涯学習センターが協働で行っており、企画・運営については、「小田原市生涯学習推進員の会」が中心となるなど、市民参加を取り入れた手法で行っています。

この「パソコン講座」は、市内の各中学校のパソコン教室で開催され、地域とより密着した講座となるよう、自治会公民館や各中学校のスクールボランティアコーディネーターとも連携して開設しているのが特徴です。具体的には、講座開催前に、小田原市生涯学習推進員の会を中心に、会場となる中学校の学区内に位置する自治会公民館の館長に集まっていたり、各地区ごとの個別説明会を行っています。また、各自治会公民館に講座のポスターやチラシを置いてもらい、公民館利用者に広く周知をいただいています。公民館長からは、直接、地区の方に声をかけていただいています。

高度情報化社会と言われて久しくなりますが、特に高齢の方にとっ

ては、まだまだ、パソコンに対して敬遠しがちな方も多いと思われます。しかし、当講座では、地域の学校に、地域の高齢の方が多く集まり、パソコンについて、その良さ、豊富な利用方法などを学んでおり、講義中にはぎやかでとても楽しい雰囲気となっています。講師もパソコン操作等の技術支援を行っているNPO法人パソコンサークルの皆様にご協力いただいたり、市広報広聴室職員が市ホームページの説明を行ったりするなど講座内容も多彩で、受講後の感想も有意義であったと感じている方が多く、「パソコンを知ってほしい」という当講座の目的は達成しているのではないかと考えています。

パソコン講座は、平成十九年度から始まり、今年度で市内すべての十一中学校で開催されることとなります。これからも、地域や市民ボランティア団体とともに、地域に根ざした生涯学習活動を展開していきたいと考えています。

「交通案内」

小田原市生涯学習センター「けやき」

小田原市萩窪三〇〇

小田原駅から徒歩十五分

046513515300

サークル紹介

混声合唱団「混声ポピン」

大井町立中央公民館

三十年の歩み、私達は、昭和五十四年に女性コーラス「ポピンコー」として産声をあげました。当時は町の公民館がなく、中学校の体育館で行われた町文化祭で初めてコーラスを披露したことを覚えて

います。平成十年のかながわ国体の開会式では、百人のコーラス隊のメンバーとして、男性も加わり参加しました。その後「混声ポピン」と名を改め、混声合唱団として再スタートし今日に至っています。

昭和六十二年に待望の公民館が完成し、視聴覚室で平日、土曜夜と予約すればいつでも練習できるようにになりました。町の文化祭では、障害者地域作業所のみなさんとの共演が恒例になり、町制五十周年記念式典、町戦没者慰霊祭、ひとり暮らし高齢者の食事会ミニコンサート、町民体育大会開会式の町民歌斉唱等、さまざまな行事にお声をかけていただき、楽しく参加しています。

また、町文化団体の加盟団体と

して町文化団体連絡協議会主催の芸能まつりでは、出演するともに団員から役員が企画、運営に携わり協力しています。

節目毎にコンサートを計画し、クリスマスコンサートやリコーダー、箏、マンドリン、フルート等とジョイントも行ってきました。

昨年十一月二十九日の三十周年コンサートは、歴史を踏まえての構成にし、自分達の発表の場になりました。町・公民館の御支援、会場いっぱいのお客様、いつも明るく



指導してくださる先生方、いつものコンサートよりハーモニを気にしながらの練習に励んだ団員の素晴らしいチームワークで大成功に収めるこ

とことができました。これからも老若男女歌の好きな仲間達のサークルとして元気で活躍していきたいです。
(会長 間宮真理子)

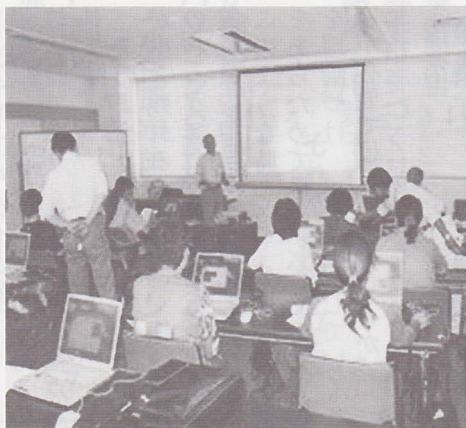
サークル紹介2

「丹沢パソコンクラブ」

秦野市立北公民館

私たちは丹沢の麓にある北公民館を拠点に、この地区のIT振興のためのボランティア活動を続けてまもなく八年になります。

発足のきっかけは平成十二年、当時のADSL化でこの地区が市内で唯一対象から取り残されたことです。これに危機感を抱いたのが地元メーカーを定年退職した住民たちで、自治会などの地域団体へ呼びかけ早期開設を要望する運動を起こしました。これを機に地域のIT化促進が大切だとの共通認識が仲間内に高まり、翌年からクラブとして活動を始めました。発足以来ずっと続けているのは、なかなかIT学習の機会のない肢体不自由の方々を対象としたパソコン講座です。公民館のバリアフリー機能を活かし、公民館とともに地区内の障害者支援施設丹沢



律生活センターと連携してこの講座は、一人ひとりの障害やニーズに対応しマンツーマン方式で行っています。

最近人気の「シリーズ講座」は、一般の方々を対象にワードなど単独ではなく、日常の用途に合わせたソフトを総合的に活用するものです。講座からは新しいパソコン

〔交通案内〕
大井町立中央公民館
足柄上郡大井町金子一九九五
JR御殿場線「上大井駅」下車徒歩十五分
046518315409

クラブも生まれました。また毎年公民館まつりでは、子ども向けのブリクラや来場者の記念撮影で、いつも大賑わいです。

ほかにも定例の勉強会や家族も参加してのバーベキュー大会などを開き、和気藹々とした雰囲気の中で会員の親睦も深めています。

職員からの一言

平塚市立天神公民館主事

『公民館雑感』



佐藤 克美

平成三年五月、教育長から地区公民館勤務を命ずる辞令を受けました。これが私の「公民館」との出会いです。

遡って昭和五十四年から五年間、市民部青少年課で、戦後第三のピークと言われた「青少年非行」に取り組む中で、現在の「中学校区地域教育力ネットワーク協議会」のスタートである「中学校区非行化防止推進団体組織」の立ち上げを担当したこともあり、教育委員会とはひと時身近な距離にありましたが、それから数年後に、出向辞

今後も地域のIT振興に向け、会員の全員参加で明るく積極的な活動を展開していきます。

(会長 朝倉和彦)

「交通案内」

秦野市菩提三五四番地の三
「菩提」バス停下車 徒歩二分
0463-75-1678

令がでるとは思ってもいませんでした。

辞令発令のその日に赴任したところ、地区内では、青少年育成関係の役員を中心に行事の打合せがあり、早速公民館主事として、その打合せに参加しました。お互い初顔合わせにもかかわらず、旧知のメンバーのように接していた中で、公務として経験したことのない、アットホームな感覚を受けました。まさに「普段着の感覚」のような、新鮮さを感じました。これは、以降の公民館勤務の中で、公民館のあるべき姿の一つとして常に念頭に置き大事にしました。そこには、「青空公民館」の時代から「ゲタ履き論」に表される身近な「わが地区の学びの館」として、大切に受け繋がれている歴史を感じ取ることが出来たからです。と同時に、公民館勤務になったこ

とにより、部局の職員としてどこかで模索していた住民との協働が、社会教育法の中ではありますが、地区公民館という限られたエリアであればこそ、目に見える形で得られる喜びがそこにあることも実感しました。

五年五ヶ月の实り多い最初の公民館勤務から離れ、部局勤務となりましたが、平成十六年四月に再度の地区公民館勤務の辞令を受けました。配当予算を始め公民館をとりまく環境の変化を感じました。私の知る「社会教育」や、「わが地区の学びの館」が停滞しているように思われました。余談ですが「寺中構想」が注目を浴びている一つに、温故知新が切に叫ばれているような気がします。

日本の歴史を背景として生まれた社会教育の実践舞台である公民館が、各方面の単なる便利な建物ではなく、長きにわたって担ってきた社会教育施設であることを、今こそ私達教育委員会の公民館関係者が再認識し、声を大にする時ではないでしょうか。

編集後記

景気低迷の影響により自治体の税収入が大幅な減収となっている。維持管理費がかかる箱物施設である公民館など、社会教育施設に対しての風当たりが強くなっています。県内でも社会教育施設の休館や閉館といった新聞記事が報じられるようになりました。公民館は、生涯学習を推し進める中核施設であり、地域住民の拠点基地です。

このような情勢の中で、公民館が生き残れるか否かは、地域住民のバックアップに支えられた公民館職員の力量が、必要不可欠です。このような時こそ、公民館の役割をあらためて見直し、その必要性を理論づけ、アピールしていくことが必要ではないでしょうか。

総会案内

平成 22 年度の総会は、次の通り開催が予定されています。

○とき 平成 22 年 5 月 21 日
(金) 午後 2 時 10 分から

○ところ 川崎市高津市民館

○交通案内 JR南武線「武蔵溝ノ口」・東急田園都市線「溝の口」下車 駅前ノクティ 2 11・12F

